

# 奥会津だより



枯野の大地に耳を澄ませ  
足元にささやく声がある  
「私がここにいます」と  
薄紫の花群れは  
早すぎた春に何度も雪をかぶって  
蘇った命の証だ



写真：菅 敬浩

# 父の中学生時代

柳津町立西山中学校三年 渡部 文広 (平成二十年当時)



運転で捕まることはなかった。運転して警察に会っても平気だった。俺の父は目があまり良くなかったので、ほとんど山からの帰りの運転は俺だった。

ある日こんなことがあった。父が夕方、俺に運転を頼まないで自分で運転してきたとき、道路から崖に耕運機が落ちそうになった。その時、母と祖母も乗っていた。俺の母は、父が勝手に運転して、俺を頼まなかったことを父に怒っていた。それから父は、絶対に夕方から暗くなるので、それ以来、必ず俺を頼んでいた。その時間は、俺の仕事だと思っていたので、その時は勉強をしなかった。

父の話を聞いて、写真の耕運機はないですが、今でも祖父の使っていた耕運機を父が運転しているの、とてもビックリしています。それに昔は、今と違い平気で無免許運転をしていたので、事故をおこしたらどうなるのかなあと思いました。でも、父の中学生のころの生活は、楽しそうだったのでいいなあと思いました。

## 取材ノート 「二十一年前の聞き書き・その後」

- Q: 昭和二十六年生まれのお父さんが中学生の時の写真。今年六十九歳のお父さんは、お元気ですか?
- 文広さん: 西山で元気に働いています。休みの日は、農作業をしています。
- Q: 西山のご実家には、今、誰がいらっしゃるのですか?
- 文広さん: 父と母がいます。
- Q: この写真を見て、何か思い出することはありますか?

自分って、こんなに人見知りなのかな、って…。

Q: 高校時代に親友が出来ましたか?

文広さん: 親友といったら、中学時代の同級生かな。男子六人、女子二人の八人でした。今でも仲がいいです。

Q: 高校卒業後の進路は?

文広さん: 電気系の職種を希望しました。都会への憧れもあったんですが、父親から「地元で就職したほうがいいんじゃないか」と助言されたこともあって、今の職場になりました。電柱の配電線工事をしています。

Q: 就職して何か感じたことはありますか?

文広さん: 子どもの頃、停電した時に直してくれる人たちにあこがれていたのですが、いざ自分になってみると、厳しい現実もありました。

Q: 奥さんとは、どちらで知りあったのですか?

文広さん: 高校は別だったのですが、同じ陸上部で二人とも長距離でした。

Q: ご実家の西山へは、年に何回ぐらい行くのですか?

文広さん: 二、三か月に一回くらいです。両親は、孫に会うのが嬉しいみたいに行くのですね。



渡部 文広さん (筆名若松市柳原町在住・平成五年生 二十六歳)

です。母の作ってくれる「から揚げ」が美味しいので、皆楽しみにしています。これからもずっと元気で農作業してくれたいな、と思います。

※文広さんは、子どもが生まれた時に、感動して心から「ありがと」と思った、とのこと。「頑張ったね!」ってあんなに大きな声で言ってたね、と嫁さんから言われまして。

写真・文責 菅 敬浩

## 奥会津の鳥

写真・文: 新国 勇

### アカゲラ

このキツツキはアカツケラというが、トチハカリとよぶときもある。トチの実を榎（榎）の中に入れたときにでるタラララ…という音が、キツツキがくちばしで木の幹をたたいてだす縄張り宣言の音に似ているからという。



### ひな流し



三月四日。只見川の岸辺に、一艘の小さな箱舟が浮かぶ。揺れながら岸を離れる箱舟には、丸髻（丸髻）を結った姉様人形の紙雛たちが、虚ろに空を見上げたまま納められている。

三島町高清水地区では子どもたちが、ひな祭りの翌日、家ごとに女性の数だけ作られた紙雛を集めて歩く。これを木の箱に詰めて只見川に流す行事は一時途絶えていたが、地域の子どもたちが復活させて四半世紀余りが過ぎた。

紙雛は女たちの厄を背負って水と同化し、浄めてくれると信じられてきた。次第に遠ざかる紙雛たちは、やがてその姿を水に委ねる。(奥会津書房)

聞き書きの第二弾、「奥会津 こども聞き書き集 I」が出版されました。ご希望の方は、切手 200 円分を同封の上、下記宛てにお送りください。  
〒 969-7511 福島県大沼郡三島町宮下字中乙田 979 奥会津書房

# 奥会津巨木めぐり

大原鹿島神社のトチノキ (南会津町大原)



トチノキは臼や床柱などの用材としてすぐれているため伐採される。それにもかかわらず巨木が多い。山中にある巨木はトチの実を採るために残されてきたものだろう。一方、人里での巨木は鎮守の森にある。これは幹周五九一cm、樹高二十九mもあり、天然記念物級の巨木だ。村内を走る国道から山ろく際に空高くそびえている。

写真・文：新国勇

## 奥会津の神々

### 奇岩の杜



会津只見駅の南に位置する要害山中腹の森。推定樹齢二百年といわれる五葉松が生い茂る森に、奇岩をご神体とする社が鎮座する。

小高い頂きに向かう細い参道に、寄り添って天を指す大木の老杉が現れる。そこには一本の注連縄が張り渡されて俗界を隔て、さらに高みへと誘う。次々と待ち受ける十一の注連縄を潜ると、一の岩、二の岩(泪岩)と奇岩が連なり、木々の間からせりだしたひととき巨大な三の岩(縁結びの岩)が現れる。この三つの岩を磐座として「三石神社」の名が冠された。

この森には意志がある。注連縄を潜る度に邪気をひととつづつ削ぎ落とし、残りの一切を「みそぎの水」の名を持つ清水が浄化する自然の巧みな配置の中で、古来どれほどの人々が幾多の邪気を脱ぎ捨てたことか。やがてたどり着いた三の岩の無数に開いた穴に紐を通して、縁結びの成就を願う。

(写真・文：奥会津書房)

## 奥会津の郷土料理

### 野ニンジン

野ニンジンとはフキノトウと共に真っ先に春を告げる山菜だ。人参に似たギザギザの葉と、強い香りが特徴。サクサクした食感のてんぷらは、虬になりそうな芳しい香気に、なまっただが覚醒する。和風のパクチーのように生のままサラダに散らすのもよい。



## 只見線

写真・文：竹島善一

異様な振動と共に、列車は小さな雪崩に乗り上げて停車した。何とか乗り切ろうと前後進をくり返すが、圧縮された雪は重く、運行を断念する。車掌が、乗客の行き先を尋ねて回り、夕

クシーを手配してくれた。乗客五人が二台のタクシーに分乗する。豪雪地帯の鉄道は、使命を果たすために多大な出費を強いられる。



昭和52年2月 滝谷

『会津 蘇る記憶Ⅲ』より

# Q方言クイズ

クイズに答えて奥会津の地場産品を買おう!

問題：次の方言の意味は何でしょう？

「腹くっちい」

ヒントはありません。

正解者の中から抽選で2名様に、三島町の「ぶどうづる小銭入れ」をプレゼントいたします。

●応募方法：官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。

●あて先：〒969-7511

福島県大沼郡三島町大字宮下字中乙田979  
奥会津書房 宛

●応募締切：2020年3月31日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。※クイズの答えは次号116号で発表いたします。



◎114号「ウチ」の答え：家

たくさんのご応募ありがとうございました!

奥会津だより  
定期読者募集中

ご希望の方は事務局まで発送先(ご住所・お名前)をご連絡ください。

問い合わせ先：只見川電源流域振興協議会事務局

TEL.0241-48-5525 FAX.0241-48-5575

E-mail: webmaster@okuazu.net

# 読者コーナー



●奥会津の鳥「ノスリ」。見た目がカッコいいのにマグソダカと呼ばれる由来が知りたくて調べました。昔、馬ふんが道にたくさん落ちていたように、ノスリもたくさんいたとのこと。貴紙はいろいろ知るきっかけになるので面白いです。(須賀川市：M.Nさん)

●毎号楽しみに拝見しています。災害を伝承することの大切さを改めて考えさせられました。(広野町：N.Mさん)

●「奥会津だより」は全部が懐かしかったりいろいろと勉強させられることが多くてためになります。これからも頑張ってください。(南会津町：B.Tさん)

●繰り返される水害を幾重にも乗り越えてきて、今の奥会津があるんだなと思いました。(会津若松市：A.Kさん)

●温暖化から自然がくれた氷の花。人の手では絶対不可能な植物たちからの飴細工芸術。「頑張るぞ」「春を待ってよ」と言ってるようにも見えます。(我孫子市：N.Aさん)

●まず表紙の写真に感動します。次に、「聞き書き百選」を読みます。本を手にするのが楽しみです。(会津坂下町：S.Kさん)



ユキツバキ

奥会津振興センターからのお知らせ

「奥会津だより」  
が  
改編されます。

日頃より、「奥会津だより」をご愛読いただきありがとうございます。本誌は掲載記事や発信方法の更なる充実を目指すため、来年度から改編を予定しております。

次回の発行時期や内容が確定し次第、皆様にお届けできるよう尽力いたします。

今後とも本誌及び当協議会の活動にご理解・ご協力の程、お願いいたします。

## 奥会津イベント情報

4月~5月

期日	イベント名	町村名	場所	問合せ
4月1日(水)	溪流釣り解禁	金山町	只見川及びその支流	只見川漁業協同組合金山支部長 馬場 清次 ☎0241-56-4252
	溪流釣り解禁(鮎を除く)		野尻川及びその支流	野尻川排出漁業協同組合(坂内商店) ☎0241-54-2123
	ヒメマス漁解禁	館岩地域	沼沢湖	沼沢漁業協同組合長 鈴木 茂 ☎090-7066-6078
	溪流釣り解禁		伊南川本流支流及び館岩川本流支流	南会津西部非出資漁業協同組合 ☎0241-72-2110
4月中旬	前沢ふるさと公園・資料館オープン	館岩地域	前沢集落	前沢景観保存会 ☎0241-72-8977
4月中旬~下旬	カタクリ・さくらまつり	三島町	大林ふるさと山(三島町大字西方)	三島町観光協会 ☎0241-48-5000
4月25日(土)	妖精美術館オープン	金山町	金山町妖精美術館	金山町妖精美術館 ☎0241-55-3180
	沼沢湖キャンプ場オープン		沼沢湖畔キャンプ場	道の駅奥会津かねやま ☎0241-55-3334 (オープン前) 金山町自然休養村センター ☎0241-55-3140 (オープン後)
4月29日(水)	久保田三十三観音まつり	柳津町	久保田三十三観音まつり	柳津観光協会 ☎0241-42-2346
	昭和の日は昭和村の日	昭和村	〒968-0212 福島県大沼郡昭和村大字喰丸宮ノ前1374 交流・観光拠点施設 喰丸小	昭和村役場産業建設課観光交流係 ☎0241-57-2124
4月下旬	奥会津ただみの森キャンプ場	只見町	奥会津ただみの森キャンプ場	会津ただみ振興公社(奥会津ただみの森キャンプ場) ☎0241-82-2432
	歳時記会館オープン		歳時記会館	会津ただみ振興公社(歳時記会館) ☎0241-82-2221
	河井継之助記念館オープン		河井継之助記念館	会津ただみ振興公社(河井継之助記念館) ☎0241-82-2870
	前沢薬師堂まつり		前沢集落	前沢景観保存会 ☎0241-72-8977
5月初旬	長卸山 山開き	館岩地域	木賊温泉	南会津町観光物産協会館岩観光センター ☎0241-64-5611
5月上旬	高清水自然公園オープン	南郷地域	高清水自然公園	南会津町観光物産協会南郷観光センター ☎0241-64-5811
5月10日(日)	飯谷山 山開き	柳津町	飯谷山山開き	やないづふれあい館 ☎0241-42-3511
	要害山 山開き	只見町	要害山	只見町観光まちづくり協会 ☎0241-82-5250
5月12日(火)	愛宕神祭礼奉納歌舞伎	檜枝岐村	檜枝岐の舞台	尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432
5月中旬	第7回会津高原チロリアンフェスタ	館岩地域	会津高原地区	チロリアンフェスタ実行委員会 ☎0241-78-3075 (P.ワインズ)
5月17日(日)	博士山 山開き	柳津町	博士山山開き	やないづふれあい館 ☎0241-42-3511
5月23日(土)	桐の里ウォーク2020	三島町	三島町内	三島町教育委員会 ☎0241-48-5599
5月30日(土)	尾白山・大博多山 山開き	伊南地域	南会津森林組合伊南支所前受付	南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711
5月下旬	大嵐山・湯ノ倉山 山開き	館岩地域	湯ノ花温泉	南会津町観光物産協会館岩観光センター ☎0241-64-5611



発行：只見川電源流域振興協議会(柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町(南郷、伊南、館岩地域)・檜枝岐村)

発行日：3月16日発行(年6回発行)事務局：〒969-7511 福島県大沼郡三島町町民センター内奥会津振興センター TEL.0241-48-5525

http://www.okuazu.net ☒ webmaster@okuazu.net 編集：奥会津書房 福島県大沼郡三島町宮下 TEL.0241-52-3580

★只見川電源流域振興協議会は、福島県只見川流域の7町村の活性化と振興を図るために活動している団体です。

この冊子は電源立地地域対策交付金の事業により作成されています。